

日程第4 一般質問

○議長（武石善治） 日程第4 一般質問を行います。

質問の通告がありますので、発言を許します。6番 北林義高君。

（6番 北林義高議員 一般質問席登壇）

○6番（北林義高） それでは、一つ目の質問に入らせていただきます。

上小阿仁小中学校の部活動について、質問いたします。子どもたちの部活動では、7月のJ A 共済学童野球地区予選で優勝して、県大会へ出場となりすばらしい活躍を見せております。最近では、年々子どもたちも少なくなり、チームを作るのも大変だと思いますが、少人数の競技の方はどうでしょうか。子どもたちの力を伸ばすためならと転校してまで競技を行わせたいと考えている親もいるように聞いております。もし、そのような事になれば、子どもばかりか親の転出もあります。村の人口の流出にも繋がります。

本県では、全国学力テストで、今回も小中学校で6回連続トップクラスの成績を収めております。少人数教育も生徒自身の意欲や学習環境等が良いのではないかと言われております。幸いにも我が村は、少人数教育などの環境が整っているように思います。勉強は勿論ですが、部活動の方でも、子どもたちの力を伸ばすために、少人数の少ない競技の指導もよろしくお願いします。指導する先生方も、大変と思いますが、今一度個人競技の方も、考える必要があるように思われます。ご答弁をお願いします。

○議長（武石善治） 答弁を許します。村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 北林議員の小中学校の部活動に対するご質問にお答えいたします。私には専門の教育長がいますので、教育長に答弁を変わってもらったつもりでいますけれども、一端として私の考えを述べさせていただきます。

まず、部活動は教育課程以外に計画された、学校の教育活動であります。部活動の指導は、授業とは別の指導力が求められ、経験のない部活動の顧問の場合、肉体的にも精神的にも大変な負担が強いられているという声が聞かれます。

また、2012年秋田県教職員組合のホームページに、この部活動に関するアンケート結果が出ておりますので、インターネット等でご覧いただければと思います。その中には、家庭を犠牲にしてやっているこの現状を、もう少し地域の人が分かってほしいという切実な声が、たくさん寄せられておりました。部活動が先生方にとっては、一日のうち2時間3時間という形で行われており、それに対する十分な手当も出ていないのが現状であります。そして、せめて休みぐらい家庭に奉仕したいと思っても、練習試合などに取られて、大変な状況になっていると書かれておりますので、もし皆さんも興味がありましたら、そういった面を調査してみればいかがでしょうか。

学校教育の中で、児童生徒の発育発達の程度に合わせ、スポーツ活動を行うことは、心身の発達に大きく影響を与え、将来の人間形成にも役立つものと私は捉えております。子どもたちの持っている潜在能力や特性を涵養するカギになるものとして、クラブ活動や部活動は、地域でも重要な位置を占めていると考えております。

また、学校生活の中で、授業と共に非常に大きな役割を占めているものと自分は思っております。しかし、先生方は、どういう思いで指導されているのか、こういった面もキチット我々が、知る必要があるのではないかと。こちらは、いろんな要求は出す訳ですけれども、親は、いろんな考え方、千差万別の判断の仕方を大人として持っている訳ですので、そういった面で、キチットした先生方のサポートも、考えてやらなければならないと思っております。

学校教育の一環として、スポーツに関心と興味を持つ、そして顧問の先生の指導の下に、自主的に自発的にスポーツを行って楽しんで行く、という形であればいいが、何としても勝ちたい、勝ちたいために毎日遅くまで練習を重ねて行くという、子どもの発達時期における勝利主義が無いとも言えないのではないかと。そういった意味で、小学校の場合は、社会体育化ということであり、中学校も都会に行くと、スポーツクラブへの入部というふうに変ってきていると思います。

親御さんからは、いろいろな要望があると思います。議員さんがおっしゃるように個人競技に対しても、もっと目を向けて指導してもらいたいという思いはあると思いますが、いかんせん生徒の数が少なくなって、団体競技の存続も危ないような状況になっており、なかなか個々の希望を取り入れて、それに応えて行くという状況にないのが実情だと思いますので、ご理解をお願いしたいと思います。詳しいことは、教育長から答弁をさせていただきます。

○議長（武石善治） 教育長。

（出川幸三教育長 登壇）

○教育長（出川幸三） ただいま村長の方から、教職員の立場側にたったお話をさせていただきました。北林議員さんのご質問に対して、主に中学校の部活動に関わってのご質問が主ではないかと判断いたしましたので、学校が平成 24 年度から部活動に関して検討してきた経緯を説明して、ご理解をいただきたいと思っております。

中学校の部活動については、今申したように、平成 24 年度に校内に「部活動検討委員会」を発足させ、今後の部活動の在り方について、生徒数の急激な減少等の課題が、今村長からお話しがありましたように、一番対応の難しさを感じているということで、学校でも委員会を発足させて、検討してまいりました。

その結果、学校では、部活動で個の力を伸ばすことは大事であるということ

は、十分認識しながらも、生徒数の急激な減少という現実をむかえて、チーム作りが大変になってきているということで、生徒、保護者のご理解をいただきながら、人数的に団体競技を続けることが可能な期間は、団体競技を優先させたいという結論に達しております。

その理由としては、団体種目・団体競技は、部員が心を一つにしてお互いに助け合い、励まし合いながらチームワークを育てて、生徒の成長を図っていくことができ、集団での人間形成という点で、大変有効である。主な理由の一つとしては、それが挙げられます。

また、もう一つとしては、学校の教育活動を盛り上げていく、特に学校の対戦で応援をしていくということは、たとえば、吹奏楽部の部員が、大会当日見ていただければ分かるのですが、野球部の応援に出かけて、攻守交代休むこともなく、一生懸命応援している姿を見ております。そういった面で、学校の教育活動を盛り上げるための一つとして有効であると。

主な理由を二つ挙げましたけれども、まだその他にもあったと思いますが、そのことから判断して、25年度からは、個人種目については、新入生から入部制限をして、現在に至っております。

この間、教育委員会では、校長からその経緯について説明を受け、この学校の方針を了承しております。その理由としては、部活動の存続・休部・再編等につきましても、学校の経営方針に則って行われるものであり、学校の判断を尊重し、支援していくことが基本であると教育委員会では捉えております。

先ほど述べました学校事情をご理解の上、学校と子ども、そして保護者が一体となって、上小阿仁小中学校を盛り立ててくださるようよろしくお願いいたします。今後も、少人数の学校でも活力のある学校づくりに邁進したいと考えております。

なお、個人競技の部活動については、学校・生徒・保護者の状況を踏まえながら学校においても検討して、これからも状況状況をよく把握しながら、検討していただくようお願いしたいと考えております。

○議長（武石善治） 6番 北林君。

○6番（北林義高） 答弁ありがとうございました。これからも子どもたちのために、よろしくお願いいたしますと思います。これで、一つ目の質問を終わらせていただきます。

○議長（武石善治） 6番 北林君。

○6番（北林義高） それでは、二つ目の質問に入らせていただきます。

河川の中州の除去についてお聞きします。河川の中州の除去は、最近県の方でも進めていただき、本流の方では徐々に進んでおりますが、支流の方はなかなか進んでおりません。

最近の天気を見ておりますと、ゲリラ豪雨や大雨特別警報と言われるような、大雨による大きな被害がでております。先日の仙北市の土石流では、6名の方が亡くなっております。大館市でも住宅の浸水や田畑の冠水などの被害がでております。幸いにも村では被害がありませんでした。

しかし、村でも今までに何回か浸水や冠水などの被害があり、避難指示なども出ております。雨が続くと本流より支流のほうが洪水の心配があります。今は、大雨から逃れておりますが、いつ大雨に見舞われるかわかりません。洪水の被害を少なくするためにも、中州の除去や堤防工事など村単独では出来ない所もありますが、県の方に要望するなどの対策が必要と思われれます。

ご答弁をお願いいたします。

○議長（武石善治） 村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 北林議員の河川の中州の除去についてという質問でございます。

ご承知のことと思いますが、小阿仁川に合流している仏社川及び五反沢川は、小阿仁川と同じ1級河川であり、管理は秋田県となっております。ご質問はその地域を指しているのか、その状況がよく理解できませんけれども、小阿仁川の中州につきましては、6月3日に開催の村と北秋田地域振興局との意見交換時に要望しておりますが、堆積土砂のストック場所の確保の関係で、なかなか進んでいないのが現状であるとの回答でありました。また、下流から事業を進めている関係で、上小阿仁村の方が遅れているとのことでありました。

昨年度は、仏社川と羽立橋の上流の堆積土砂の撤去を行っていただいております。大阿瀬の堤防下も伐木整備と堆積土砂の撤去工事を行っていただいております。また、杉花橋上流の雑木の処理も行っていただいております。大きな工事ではありませんけれども、少しずつ県の方でも、手をかけていただいております。

しかし、議員がおっしゃるように、小阿仁川を見ますと、まだまだ整備が必要な箇所がございますので、小阿仁川水系対策委員会と合わせながら、よりよい環境のために関係機関に対し、陳情・要望を重ねて実施していくことが必要であると思っております。

上小阿仁村で設置した小阿仁川水系対策委員会、これは上小阿仁村と北秋田市が一緒になって、小阿仁川地域の清流復元のために、活動している委員会でございます。つい先日、8月27日にもこの委員会が、小阿仁川の流況調査を行っております。その時にも、県の河川砂防課と北秋田地域振興局に、雑木や中州の除去についてお願いをしております。

また、7月23日には、議長と建設課長が本庁の河川砂防課長に小阿仁川の河

川改修等について要望活動をしておりますので、付け加えさせていただきます。

ただその他の小規模河川、たとえば長信田川や小沢田川、友倉川、大内沢川、それから沢沢がある訳でございますけれども、そうした所の管理は、村管理となっておりますので、各集落からいろんな要望があれば、適宜に対応させていただきたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

場所が分かればそれなりに、たとえば五反沢川であれば五反沢川のこの辺だと、小阿仁川水系の対策委員会でも小阿仁川の流域、それからもう一つ踏み込んだ支流までという形で、調査がなされておられませんので、そういった面では、もしかすれば、見落としもあるのかなと考えております。

ご指摘箇所を教えていただければ、県の方、振興局の方に要望してまいりますので、よろしくをお願いいたします。

○議長（武石善治） 6番 北林君。

○6番（北林義高） 答弁ありがとうございます。これからも、洪水対策のために要望等を出していただきたいと思います。これで二つ目の質問を終わらせていただきます。